

球磨農業研究所

第1 基本方針

球磨地域の水田地帯では、水稲、野菜、タバコ、畜産などが営農されている。畑地では露地野菜、茶、落葉果樹などが導入され、生産性の高い大規模経営及び所得向上のための安定的複合経営の確立が求められている。

一方で、担い手の減少と高齢化に対応した省力化技術の開発や、新しい米・麦政策に対応した水田利用の再構築、環境保全型農業に関する技術開発など、新たなニーズや問題に対応する必要がある。

また、消費動向の変化に伴う業務加工用農産物や薬用作物の増加が当地域にも波及している。

このため、普及・行政・農業団体などの関係機関と密接な連携・協調を図りながら、球磨地域が直面する技術的課題を迅速・的確にとらえ、球磨地域特有の気象条件などに適応した茶、落葉果樹の優良品種選定と、その特性に合った高品質安定多収生産のための栽培技術の開発を行う。さらに、各専門研究所と連携し、省力・低コスト生産技術の検討を行うとともに、新技術の普及・実用化のための応用組立実証を中心に試験研究を進める。

第2 重要研究事項

1 球磨地域に適した茶・落葉果樹の優良品種選定

国、県などで新たに育成された品種系統の中から、品質・栽培特性の両面で球磨地域に適する茶、落葉果樹（早生モモ）の品種を選定し、栽培のための基礎的なデータを収集する。

2 中山間地活性化のための落葉果樹の栽培技術開発（果樹部門）

県内の最大産地であるクリについては、優良品種である「美玖里」の普及が期待されているが、「美玖里」は、他品種に比べ樹勢が強く、特に若木期の枝が大きく徒長する傾向にあり、低樹高への仕立てが困難である。そこで、低樹高栽培が可能となる中庸な枝を発生させ、枝梢の発生本数を増やすことで幼木期から若木期の収量増加につなげる栽培管理技術を確立する。

一方、県内の主要産地であるモモについては、優良品種である「さくひめ」について、晩霜害などの気象災害回避技術や、トンネルハウス栽培による高品質・安定生産技術を確立する。

3 球磨地域におけるウリ類の安定生産技術の確立（野菜部門）

球磨地域ではウリ類の生産が盛んであり、従来主力品目であるメロンに加え、近年ではズッキーニの施設栽培も注目されるなど新たな展開もみられるが、各品目で課題を抱えている。メロンは、高齢化に伴い、交配や収穫等が重労働であるため、省力化が求められている。このため、効率的な栽植密度、整枝法の検討が必要である。ズッキーニは、半促成栽培で3～4月に雄花が不足するため、この期間の収量が不安定となっている。施設化に向けての着果安定技術確立が急務である。

そこで、省力的かつ収量性を確保する栽培技術及び着果安定技術を確立し、更なる産地強化及び生産拡大を目指す。

第3 試験研究課題一覧

【球磨農業研究所】

部門	大課題	中課題	予算		小課題	試験期間
			金額	区分		
茶・果樹・野菜	1. くまもとの魅力を発信できる新品種の開発・選定	(1) 球磨地域に適した茶・落葉果樹の優良品種選定	1,768	県単	① 球磨地域の機械化管理体系に対応した茶優良品種の選定 ② 球磨地域の施設栽培に適した早生モモ優良品種の選定	S53～継続 S58～継続
	2. 稼げる農業を目指した革新的な生産技術の開発	(1) 中山間地活性化及び高齢化に対応したクリの安定的栽培技術の開発	974	県単	① クリ「美玖里」の成木期の枝梢管理技術の確立 ② クリの水田転換園の生育不良要因の解明	R3～R5 R3～R5
		(2) 温暖化に対応したモモ「さくひめ」の栽培技術開発（再掲）	1,029	県単	① 露地栽培における高品質果実安定生産技術の開発 「果樹研究所、球磨農業研究所」 ② 施設栽培における生育特性把握と早期出荷技術の開発 「果樹研究所、球磨農業研究所」	R3～R5 R3～R5
		(3) 球磨地域におけるウリ類の安定生産技術の確立	2,250	県単	① 半促成地這いメロンの効率的栽培技術の確立 ② 半促成栽培ズッキーニの安定生産技術確立	R4～R6 R4～R6
3. 環境にやさしい農業を推進する技術の開発	(1) 果樹における未利用資源活用による炭素貯留効果の検証（再掲）	農業技術課	令達	① せん定枝のチップ施用による土壌炭素貯留効果の検証 「果樹研究所、球磨農業研究所」 ② せん定枝のチップ施用が樹体等に及ぼす影響 「果樹研究所、球磨農業研究所」	R4～R6 R4～R6	

注) **新規**：本年度から新たに取り組む課題

組替：課題設定時の内容を組み替えて設定する課題

延長：課題設定時の完了予定年度を延長して設定する課題

短縮：課題設定時の完了予定年度を短縮して設定する課題